

# 農業総合研究センター かわら版

第42号 平成20年7月30日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部  
〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

TEL: 023-647-3510 FAX: 023-647-3507

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

## 農耕地からの温室効果ガス発生抑制技術を研究中

(農業環境研究部)

農地から排出されるメタンや亜酸化窒素は温室効果ガスとして、地球温暖化防止京都会議において削減対象となっています。このため、農業環境研究部では農耕地からの温室効果ガス発生量削減に関する様々な研究を独立行政法人農業環境技術研究所や各県の研究機関と共同で進めています。

まず、栽培体系や栽培技術の改善による温室効果ガス発生削減効果を明らかにするため、水稻連作水田とともに田畑輪換による転換畑や復元田から発生するメタン、亜酸化窒素の発生量を調査しています。また、水稻の中干し期間の延長による温室効果ガス発生量の調査を実施し、水稻の生育、収量等に影響を与えず、かつ、温室効果ガス発生を削減できる中干し体系の確立をめざしています。

次に今年度からは農耕地の土壌蓄積炭素量と土壌管理実態調査を実施し、農耕地の有機物管理が土壌炭素蓄積量の変動に及ぼす影響を検討するなど、農耕地からの総合的な温室効果ガスの削減に向けた研究を進めています。



水田などからメタンを採取する  
チャンバー

## 「地産地消の米粉利用」をテーマに研修会を開催

～ 第1回山形県農産加工開発研究協議会のご案内

(農業環境研究部)

平成20年8月27日(水)、農業総合研究センターにおいて、「地産地消の米粉利用」をテーマに、本年度第1回山形県農産加工開発研究協議会を開催します。

まず、吉田製粉株式会社(長井市)の吉田芳英氏より「米粉の種類と特性」と題して、用途別米粉の種類や加工特性などについて講話をいただきます。

続いて、「米粉の需要と商品開発」について、元新潟県農業総合研究所食品研究センター長の江川和徳氏(現・江川技術士事務所代表)より講話をいただきます。

実習では、小麦・乳を使用しない「米粉シフォンケーキ」の製造実演と試食を予定しております。

参加申込みは農業環境研究部農産加工開発科または最寄りの各総合支庁農業技術普及課までどうぞ。



前回の協議会風景

## 平成 20 年度指定試験協議会果樹分科会 現地検討会が開かれる ( 農業生産技術試験場 )

6月26～27日に農業生産技術試験場において平成20年度指定試験協議会果樹分科会現地検討会が開催されました。

農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)果樹研究所、果樹指定試験事業を行う5県の担当者および山形県から21名が参加しました。

26日は試験場において室内検討を行い、技術会議事務局より指定試験事業を巡る情勢について報告いただき、次いで各県より今年度の試験の実施状況などを報告し、質疑検討を行いました。その後、試験場内の圃場をまわり、本県のおうとう育種の取り組み状況を紹介しました。

27日は天童市の「佐藤錦」のトレリス栽培圃場と寒河江市の「紅秀峰」栽培圃場を現地視察し、おうとう栽培の現状を見ていただきました。

今回の会議で、指定試験の今年度の実施状況などが確認され、参加者におうとう育種研究の現状や産地の様子などを理解していただくことができました。



現地検討会の様子

## 東ティモールの農業技術者、稲の種子生産について研修

( 農業環境研究部 )

平成20年6月16日(月)から26日(木)までの9日間、農業環境研究部では独立行政法人国際協力機構(JICA)からの依頼により、東ティモール民主共和国のフランシスコ・カルバーロさんへ「稲の種子生産」に関する研修を実施しました。

2002年にインドネシアから独立した東ティモールでは、JICAによる灌漑稲作プロジェクトが実施されており、カルバーロさんはプロジェクトの作物栽培アシスタントを務めています。当部において稲の生育調査、採種法、生産物検査、病害虫防除、土壌肥料等について講義や実習で学んだ後、現地の採種ほ場に出向き、種子生産組合長から採種ほ運営上の留意点等を伺いました。



種子生産組合長の説明を受ける  
カルバーロさん(左端)



東ティモールの国旗



## 2 時間目 りんどう新品種「ハインスホワイト」

～高原に咲く高貴な白花～

### 背景

りんどうは冷涼な気候が適するため、中山間地域における水田転作品目として生産振興。  
市場からは、従来の仏花向けのほか、洋花的なオリジナリティの高い品種が要望されている。  
他県育成品種は、産地間競争のため販売譲渡される例はない。民間育成品種が市販されているが、他県産地と比較してオリジナル性の点で優位とは言えない。  
このため、県内生産者からは本県オリジナル新品種の開発が強く望まれていた。

種子親  
10月咲き白色系  
ささりんどう

×

花粉親  
8月咲き白色系  
えぞりんどう

# ハインスホワイト



#### 【特性】

- ・開花期は8月下旬～9月上旬
- ・側枝が多く、スプレータイプのしなやかな草姿
- ・着花数が多く、切り花ボリュームが優れる
- ・花形は鐘形で、花色は緑白に浅黄緑の縞
- ・仏花、フラワーアレンジメントに利用可能

「ハインスホワイト」誕生まで

平成3年 交雑  
53系統 163組合せで交雑

平成4～7年 第一次選抜  
草姿、花色などオリジナル性が高いと評価

平成9年 再現交配  
他殖性植物で親系統の遺伝的固定が難しいため、再度特性検定

「高貴」という  
意味をこめた名前

平成20年 品種登録  
「ハインスホワイト」として品種登録  
(登録番号: 第16727号)

平成17年 品種登録出願

平成12～13年 現地適応性試験  
新品種候補「山園G2号」として、県内産地で評価

平成10～11年 第二次選抜  
育成完了  
特性の安定・均一性を確認